

各業務：院内感染対策室

—概要—

感染対策に関する院内の組織は、院内感染対策委員会 (ICC)、院内感染対策チーム (ICT)、院内感染対策ワーキンググループ (WG) から成り立っている。2018年からは、薬剤に関する業務に関してICTから独立した抗菌薬適正使用支援チーム (AST) を発足した。院内感染対策室では、ICTとASTが協同し感染症から、患者やご家族・来院者、スタッフなど病院内のすべての人を守るために組織横断的に活動を行い、病院内の感染対策に努めている。感染症は、施設を超え地域全体に広がる可能性がある。近隣の医療機関とも連携しながら、地域ぐるみの感染対策を推進していく必要がある。当院は、泉州南部地域では数少ない感染対策向上加算1取得施設であるため、感染管理加算の連携施設だけでなく、長期入院療養施設や介護に携わる職員などに向けても指導を行い泉州南部地域の感染対策の向上に努めている。

—実績—

2022年度 院内感染対策室の活動と担当者

グループ	細目	担当者
サーベイランス	BSI、SSI、VAE、UTI、症候（発熱患者）、針刺し、粘膜汚染	リンクスタッフ 松本 山内 藤原
環境ラウンド	感染の視点から各病棟の環境を調査	リンクスタッフ ICTメンバー
医療材料	新規医療材料の検討	リンクスタッフ ICTメンバー
教育	職員に対する教育活動 ・院内感染対策研修会 ・eラーニング研修 ・リンクスタッフ活動報告会 ・手洗い検査 ・手指消毒剤使用量調査 ・手指衛生直接観察 ・オーデットの実施 (末梢カテーテル、CVカテーテル、尿道カテーテル、個人防護具について)	リンクスタッフ ICTメンバー
清掃関係	清掃ラウンド	山内
広報	The院内感染対策News 発行	山内 狩野 藤原
耐性菌、抗菌薬 (ASTラウンド)	抗菌薬適正使用チェック 医師への指導 サーベイランス 感染症レポート作成	ASTメンバー

◆サーベイランス

【針刺し・粘膜汚染 件数】

	針刺し	粘膜汚染	合計
2022年度	31	16	47

【BSIサーベイランス】

期間	延べ入院患者数	延べ挿入日数	使用比	感染率
2022年4月 ～2023年3月	9,406	389	0.04	2.57

◆広報

The院内感染対策News (No.1～No.5) 発行

◆教育

2022年7月29日～2022年12月25日 COVID-19対策のため、E-ラーニングにて開催 ・一人一人が気をつけたい感染防止対策～新興感染症を中心に～ ・当院における新型コロナウイルス感染症 治療薬と細菌感染合併時の抗菌薬の選択 出席率:89%
2022年12月26日～2023年5月31日 COVID-19対策のため、E-ラーニングにて開催 ・インフルエンザと肺炎について ・COVID-19関連の最近の話題 出席率:81%(4/5時点)

◆感染管理加算

【相互査察】

監査施設・査察病院	実施日
監査病院: 泉大津市立病院	10/31
査察施設: 和泉市立総合医療センター	11/29

【合同カンファレンス】

テーマ	開催日	担当病院
地域で取り組む新興感染症 ～診療継続計画の作成・修正～	6月15日	浪切ホール
広域抗菌薬の使用状況について	9月22日	当院
withコロナ下での感染管理 ～現状に応じた病院での適正な感染対策を考える～	11月30日	浪切ホール
PPE着脱手順(着脱訓練含む)について	1月26日	当院

◆結核関係

- 1) 結核患者治療成績評価検討会 (第1,2,3,4四半期)
管内の塗抹陽性結核患者の治療成績の検討及び助言
7月11日(月)、9月12日(月)、12月12日(月)、3月13日(月)
14時～16時30分
場所: 大阪府泉佐野保健所 3階
倭 正也

◆その他

- 1) 2022年度 大阪院内感染対策支援チームへの参画
大阪府及び大阪府内保健所における院内感染対策の支援 Web研修 (2022.4.14)
倭 正也
- 2) 新型コロナウイルス感染症の早期治療の促進に向けた講演会
新型コロナウイルス感染症の治療とその効果 (泉佐野泉南医師会・大阪府泉佐野保健所主催)
(2022.5.26)
倭 正也

—今年度の成果と反省点—

組織体制として、役割や活動内容を明確にさせるために、ICTとWGの要綱の作成をおこなった。ICTに診療支援局の各臨床技術部門代表者と医療マネジメント課代表者をメンバーに加えた。COVID-19のオミクロン株の特性や流行を踏まえ、救急部門におけるフェーズ別PPE選択マニュアルの作成や受け入れ病棟でコロナ患者が発生した際の病棟対応マニュアルの一部更新を行った。院内でのクラスターが発生した際には感染症の実態の把握を行うために、濃厚接触者の洗い出しや、PCR検査の実施を行った。さらに、感染防止拡大対策として積極的に、当該部署にゾーニングや

患者対応などの指導を行った。相次ぐCOVID-19院内クラスター発生を受けて、ユニバーサルN95マスクの開始や職員が陽性や濃厚接触となった際に抗原定量検査で陰性確認してから勤務復帰を可能とするなどの対策強化を行った。大阪府からの依頼を受けて、ホテルや高齢者施設で対応に当たる職員に対して治療や感染対策についての研修を行った。診療報酬の改定を受け、感染対策向上加算3を取得した3施設、外来感染対策向上加算取得した16施設と連携を行った。加算連携施設に対しての合同カンファレンスでは、前半は外来感染対策向上加算取得した施設が初めて参加する事もあり、地域での抗菌薬適正使用が重要な感染対策である事から抗菌薬をテーマに選択、後半は、診療報酬内で新興感染症の発生等想定した訓練を年1回は開催するように定められている事から、PPEをテーマとし、連携施設にアンケートを実施し、結果を元にグループ分けをし、グループで着脱手順の作成を行っていただいた。加算3の3施設と希望があった外来感染対策向上加算3施設に対して、感染防止対策に関するラウンドを実施し指導を行った。サル痘(mpxv)の多国間への感染の拡がりを受けて、院内での対応マニュアルの作成など受け入れ体制を整えた。院内では、サーベイランス体制の充実を図るためにUTIサーベイランスを泌尿器科がある6海病棟を対象のみ実施していたが、10月より中央部門(EICU、ICU/CCU、5山、HCU)を対象に開始した。これにより、中央部門では、BSI・UTI・VAEと医療器具関連感染サーベイランス全てを実施することとなった。BSI・UTIで判定された症例については、ASTラウンドで適切な治療介入がなされているかを確認している。手指衛生の回数について、1患者あたりの目標回数を20と定めていたが、中央部門やCOVID-19受け入れ病棟では目標回数を上回る回数で達成した。一般病棟は、目標の20回を達成する病棟は認められなかった。しかし、リンクスタッフの活動により、回数が前年度に比べて大幅に増加した病棟も認められた。リンクスタッフに手指衛生直接観察を行ってもらったが、患者接触前66%(前年65%)、患者接触後76%(前年71%)であり、前年度と比べて遵守率に大きな変更はなかった。今年度もリンクスタッフの活動の一環である活動内容の実践報告会を、開催し活動の内容を共有した。薬局内クリーンタイムの実施においては、引き続き啓発活動を行っているため質を落とすことなく実施できている。COVID-19関連薬・ワクチンの管理に関しては、ICT/ASTメンバーで診療に影響が及ばないよう管理・発注を行い、円滑に治療が進めることができるよう支援を行った。検査科で

は、SARS-CoV-2の度重なる変異を捉えるため、その都度スクリーニングが可能な検査体制を整備した。また、各地で感染者が確認されているサル痘に関しても院内での検査体制を整え、より迅速な診断、また接触者などが出た際の緊急対応が可能となっている。感染対策向上加算については、連携施設に対しアンチバイオグラム作成に関する研修会を実施した。細菌検査に関しては、血流感染症に対して感染症内科医と連携を強化し、迅速かつ積極的な治療介入が可能となった。リハビリテーション部門では、昨年度と同様にCOVID-19患者への介入を実施した。介入にあたり部内での感染対策を徹底した。また院内のWGに継続して参加した。その内容を部門内で伝達し、職員への周知をはかる事で感染対策の意識向上に繋げることが出来た。放射線部門では、適切な手指衛生のタイミングの理解を深める活動を行った。手指衛生のタイミングの理解はE-Learning、COVID-19の感染対策等を通じて深まった。今後は環境接触後の手指衛生頻度が低いので徹底して行うように感染対策の意識付けを行う。

—来年度への抱負—

引き続き感染対策の中心となるリンクスタッフの知識向上に向けての研修の充実と、感染対策の基本である手指衛生が1患者あたりの回数や遵守率の向上に向けて活動を行っていききたい。COVID-19が5類感染症に変更となるにあたり、感染対策の見直しを含めたマニュアル等の整備を行っていく。ICT/ASTメンバーによる薬剤部門スタッフへの積極的な啓発活動を実施し、環境整備の質を上げることを目標とする。WHOによるCOVID-19感染症の緊急事態宣言が終了されたことにより、海外からの旅行者が増加すると思われるため、輸入感染症に対する対応が行えるよう体制を整備していききたいと考える。AST活動として、外来感染対策向上加算連携施設の抗MRSA薬、経口第3セフェム系薬、キノロン薬、マクロライド薬の抗菌薬使用状況の把握をしていくことを目標とする。検査科では今後は、無菌材料以外での感染症などについてもより積極的な介入が行えるような体制を構築していききたい。リハビリテーション部門では、ICT、WGメンバーと中心に部門内での感染対策を徹底し、部門内での感染の防止に努めていききたいと考える。放射線部門では、引き続き新人教育も含め感染対策の意識向上を行う。また、手指消毒剤の使用量が前年比10%向上することを目標とする。